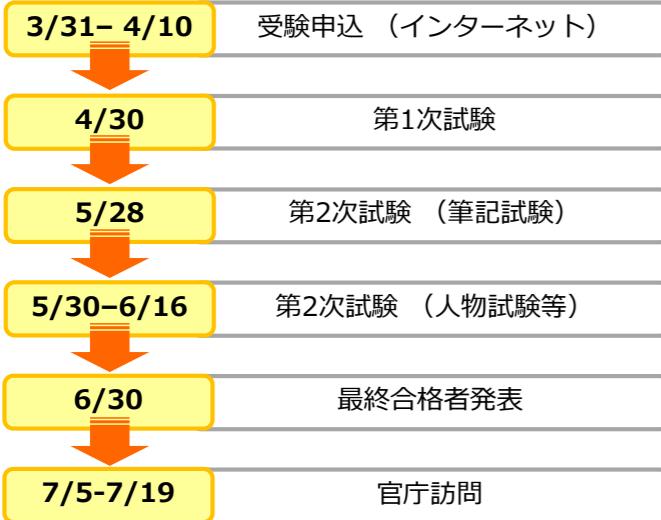


Q 科学警察研究所の職員になるためにはどうすればいいのでしょうか？

A 国家公務員採用総合職試験に合格する必要があります。詳しい試験日程は人事院HPを参照してください。



Q 募集研究室と専攻分野が違うのですが、専門的な知識や経験が求められますか？

A 大学の専攻や資格等を採用の条件としていません。業務上必要となる知識や技術は、採用後の研修や日常の業務の中で身につけることができます。

Q 院卒者試験と大卒程度試験で、有利・不利はありますか？

A 科学警察研究所では人物本位で採用を行っていますので、どちらの試験を受けても有利・不利にはたらくことはありません。

Q 転勤はありますか？

A 基本的にはありません。採用された研究室・研究部で退職まで勤務することとなります。

Q 科学捜査研究所とは違うのですか？

A 科学捜査研究所は、都道府県警察に置かれており、職員は地方公務員です。科学警察研究所は、警察庁の附属機関であり、職員は国家公務員です。科学警察研究所では、都道府県警察の鑑定技術職員に対する研修や指導も行っています。



採用実績 () 内は女性の数

平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
1 (1)	5 (0)	3 (2)	4 (1)

給与 ※地域手当含む初任給の一例

研究職 (大卒)	213,378円
研究職 (院卒)	242,740円
研究職 (博士取得)	284,504円

扶養手当	扶養親族のある者 配偶者10,000円等
住居手当	借家に住んでいる者 月額最高27,000円
通勤手当	月額最高55,000円
期末/勤勉手当	1年間に俸給等の約4.3月分

勤務時間

平日 9:30~18:15
 フレックスタイム制度導入
 年次休暇20日 (採用年は15日、残日数は20日を限度として繰越し)
 特別休暇、病気休暇等

科学警察研究所 採用案内

採用に関するお問い合わせ

科学警察研究所総務部総務課 採用担当
 TEL : 04-7135-8001 (内線2111)
 E-mail : kakeiken_saiyou@npa.go.jp

OB/OG訪問
 kakeiken2017@nrips.go.jp

平成30年度の総合職研究職員として、4名を採用する予定です。採用予定研究室の業務内容と国家公務員採用総合職試験の試験区分は以下のとおりです。



生物第一研究室 1名

毛髪や組織片の同定及び異同識別に関する研究とその成果を応用した鑑定を行っている。
犯罪現場や事故現場において採取された微細な組織片については、組織片がヒトのものかどうか、また、ヒトのものである場合には、どの組織に由来するのかを判定することが必要となる。現場で採取される組織片は腐敗や乾燥等のため、通常の組織学的検査が適用できない場合も多いことから、生物第一研究室では、現場で採取される組織片の多様な状態に応じた組織同定法の研究開発を行なっている。

試験区分：化学・生物・薬学／工学／農業科学・水産

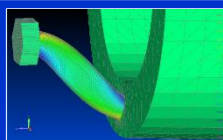


物理研究室 1名

画像解析技術や物理学を応用した犯罪捜査鑑識技術の研究開発及びそれらを用いた鑑定・検査を行っている。

最近では、防犯カメラ等で撮影された映像に対する解析法、レーザーなどの光技術を用いた分析技術、核鑑識などを主要なテーマとしてきた。今後は、近年、AIやビッグデータ処理等の情報処理技術が急速に進展し、金融や自動車の自動運転技術など様々な分野に応用が広がっていることを踏まえ、こうした分野における犯罪に対処するとともに、これらの技術を犯罪捜査や犯罪予防に応用するための研究を推進していく。

試験区分：工学／数理科学・物理・地球科学

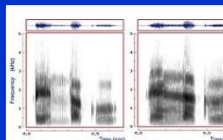


機械研究室 1名

機械部品や機械構造物の破壊事故に関する原因究明、銃器の威力や弾丸類の異同識別などの鑑定・検査を行っている。最近では、

小型飛翔体の表面状態の計測技術の開発や流体力学に基づく数値解析、機械材料の各種破壊現象に及ぼす機械的特性の影響や材料力学に基づく構造解析などを主要な研究テーマとしてきた。今後は、複雑な機械事故鑑定の高度化と効率化を目的とした有限要素法による構造解析技術の開発や、発射弾丸類の形状を3次元で自動的に取得してデータベースを構築する計測・情報処理技術に関する研究を推進していく。

試験区分：工学／数理科学・物理・地球科学



情報科学第三研究室 1名

音声による話者の異同識別や聴取困難な音声資料の明瞭化処理など、犯罪に関係のある“音及び音声”に関する研究及びこれらの技術を用いた鑑定・検査を行ってきた。

最近では、音声学・言語学を基盤とした、出身地など発話者の地域性情報推定による捜査支援、鑑定検査も行っている。今後は、近年における情報処理技術の急速な発展や金融、自動車の自動運転など、多様な分野へのその応用を踏まえ、音声分野のみならず、情報処理やAIなど情報科学全般に関する研究を推進していく。

試験区分：工学／数理科学・物理・地球科学／人間科学

ワークライフバランス

仕事と家庭の両立を支援するために、さまざまな仕組みがあります。産前産後休暇や育児休業、介護休暇だけでなく、旧姓使用制度やフレックスタイム制度も導入しています。

博士号取得

約7割の研究職員が学位を取得しています。学位を取得してから入所する職員もいますが、多くの職員が入所後に社会人博士課程などで学位を取得しています。人事院主催の海外留学制度により、外国の大学で学位を取得した職員もいます。仕事との両立をサポートする体制が整っています。

学術交流

学会参加などを通じて、国内は勿論、海外の研究者との学術交流を進めています。また、約70課題について、大学や企業との共同研究を積極的に進めています。

女性職員

男性に比べると少ないですが、多くの女性研究者が活躍しています。基本的には異動もありませんし、育児と仕事を両立するための支援制度などもありますので、性別に関係なく能力を発揮できる職場です。

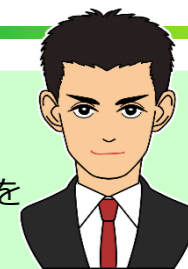
所内レクリエーション

昼休みや勤務後の時間を使って、さまざまな活動をしています。野球、サッカー、バレーボール、音楽、手芸など共通の趣味をもつ職員が集まって所属を超えた交流を深めています。



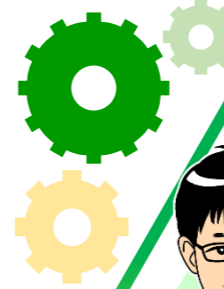
法科学第一部
生物第四研究室

日々の業務を通じて、直接的にも間接的にも社会の安心と安全に貢献していることを強く実感できる職場です。また、所内にはさまざまな分野の専門家がおり、所内レクリエーションなどの交流も盛んに行われていますので、幅広い視野を身につけることができる魅力的な職場でもあります。このような環境で、皆様と一緒に働くことを楽しみにしています！



法科学第二部
物理研究室

科学警察研究所では、警察活動における犯罪の捜査に関連する鑑定、検査、及び支援や、犯罪の防止等について日々研究を行っており、文系から理系まで、とても幅広い分野の研究者が在籍しています。年次や分野を超えて、他分野の専門家とも気軽に意見交換ができますので、研究をする環境としては、とてもエキサイティングな研究所だと思います。自分の研究を社会に役立てたいと思っている皆さん、科警研でぜひ一緒に研究してみませんか？



法科学第三部
化学第四研究室

科学警察研究所では、警察活動を通して社会の安全・安心へと還元されることを目的とした研究を行うことができるため、非常にやりがいを感じています。また、理工系の学問や心理学等の幅広い分野で当研究所の研究員が活躍しており、様々な研究に触れることができることもこの職場の魅力であると思います。科学を用いて社会へ貢献したいと考えている方をお待ちしております。



法科学第三部
化学第五研究室

学生時代に学んでいたことが科警研の業務と直接関連していなくても心配する必要はありません。入所後の研修を通して、「法科学」に関する知識や技術を基礎から身につけることができます。また、所内には幅広い分野の知識や技術を持った職員がいるため、交流を通じて日々自分を成長させていくことができます。科警研で皆さんとお会いできることを楽しみにしています。